

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】平成 24 年 3 月 8 日 (2012.3.8)

【公表番号】特表 2011-530041 (P2011-530041A)

【公表日】平成 23 年 12 月 15 日 (2011.12.15)

【年通号数】公開・登録公報 2011-050

【出願番号】特願 2011-521642 (P2011-521642)

【国際特許分類】

F 0 4 D 19/04 (2006.01)

【 F I 】

F 0 4 D 19/04 H

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 24 年 1 月 23 日 (2012.1.23)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 2 2 】

【図 1】エンクロージャ内に收容され、防弾ブランケットに囲まれた真空ポンプの実施形態を示す。

【図 2】(a) は、真空ポンプ爆発が起こる前の、防弾ブランケットの隣接する三枚のパネルを示し、(b) は、真空ポンプ爆発の間に生じて瞬間的に蓄積したガスを解放するために作動した、真空ポンプを囲む防弾ブランケットの隣接する三枚のパネルを示す。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 3 2 】

図 2 a , 2 b は、真空ポンプ 1 2 (図示せず) を囲む防弾ブランケット 8 の隣接する三枚のパネル 8 a , 8 b , 8 e を示す。パネル 8 a , 8 c , 8 e は、エンクロージャフレーム 4 又はエンクロージャフレーム 4 に加えて設けられた他のフレーム (図示せず) によって真空ポンプとエンクロージャ 2 の間で支持される。例えばバネのような弾性部材 2 6 a , 2 6 b , 2 6 c が、パネル 8 a , 8 c , 8 e に取り付けられ、これらの間に延びている。弾性部材 2 6 a がパネル 8 a とパネル 8 e の間で延び、弾性部材 2 6 b がパネル 8 a とパネル 8 c の間で延び、弾性部材 2 6 c がパネル 8 c とパネル 8 e の間で延びる。弾性部材 2 6 a , 2 6 b , 2 6 c は、固定位置 2 8 a , 2 8 c , 2 8 e においてパネル 8 a , 8 c , 8 e に取り付けられている。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 3 3 】

図 2 a は、真空ポンプ爆発に先立って真空ポンプを囲む防弾ブランケットパネル 8 a , 8 c , 8 e の構成を示す。隣接するパネル 8 a , 8 c , 8 e は、通常のポンプ作動状態において、各々のパネルの平行な端に沿って合流するように構成されている。図 2 b は、真

空ポンプ爆発が起きたときの構成を示す。真空ポンプ機構内での爆発的な反応によって形成されたガスの瞬間的な解放が、真空ポンプ 12 とブランケット 8 との間の圧力を上昇させる。弾性部材 26a, 26b, 26c は、真空ポンプ 12 とブランケット 8 の間の圧力が閾値、即ち大気圧よりも高くなったとき、部材 26a, 26b, 26c が延びてパネル 8a, 8b, 8c が真空ポンプ 12 から外向きに延びて真空ポンプ 12 とブランケット 8 の間のガスを、パネル 8a, 8b, 8c の間に形成されたギャップ 24 を通じて逃がすように構成されている。弾性部材は、さらに、真空ポンプ 12 とブランケット 8 との間のガスを解放した後、パネル 8a, 8c, 8e を内向きに引っ張り、図 2a に示す通常の姿勢に戻すように構成されている。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

防弾ブランケットにより囲まれ、この防弾ブランケットは、防弾ブランケットに衝突した発射体の衝撃エネルギーを吸収し且つ分散する多層の強繊維織物を備える、真空ポンプ。

【請求項 2】

真空ポンプは、エンクロージャ内に収容されている、請求項 1 に記載の真空ポンプ。

【請求項 3】

防弾ブランケットは、真空ポンプとエンクロージャの間に配置されている、請求項 2 に記載の真空ポンプ。

【請求項 4】

防弾ブランケットは、エンクロージャによって支持されている、請求項 2 又は 3 に記載の真空ポンプ。

【請求項 5】

真空ポンプを囲む防弾ブランケットは、ポンプと防弾ブランケットの間のガスを解放するための手段を備え、

ガスを解放するための手段は、ベントを備える、請求項 1 乃至 4 の何れか 1 項に記載の真空ポンプ。

【請求項 6】

ガスを解放するための手段は、圧力解放機構を備え、

該圧力解放機構は、独立し互いに隣接する少なくとも四枚のパネルと、各パネルに取り付けられ、各パネルの間で延びる複数の弾性部材とを有し、真空ポンプと防弾ブランケットの間のガスの圧力が大気圧よりも高いとき、圧力によって弾性部材が延びて隣接するパネルの間にギャップを形成してこのギャップからガスを解放するようになっている、請求項 5 に記載の真空ポンプ。

【請求項 7】

圧力解放機構は、真空ポンプと防弾ブランケットの間の圧力が大気圧以下となった後、前記弾性部材の復元力により前記ギャップを閉じて停止するように構成されている、請求項 6 に記載の真空ポンプ。

【請求項 8】

防弾ブランケットは、150 ジュール乃至 450 ジュールのエネルギーの運動力を有する飛散物が通過するのを防止するように構成されている、請求項 1 乃至 6 の何れか 1 項に記載の真空ポンプ。

【請求項 9】

防弾ブランケットは、少なくとも NIJ 規格レベル IV である、請求項 1 乃至 8 の何れか 1 項に記載の真空ポンプ。

【請求項 10】

真空ポンプの近くにいる作業員を、真空ポンプの故障から生じる飛散物による損傷から保護するための装置であって、

ポンプを囲む防弾ブランケットを備える装置。

【請求項 1 1】

真空ポンプの近くにいる作業員を、真空ポンプの故障から生じる飛散物による損傷から保護する方法であって、

防弾ブランケットでポンプを囲むステップを備える方法。

【請求項 1 2】

真空ポンプをエンクロージャ内に収容するステップを備える、請求項 1 1 に記載の方法。

【請求項 1 3】

真空ポンプとエンクロージャとの間に防弾ブランケットを配置するステップを備える、請求項 1 2 に記載の方法。